

## 資金、ファンドでSDGsに貢献

SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みが、様々な業界で動き出している。こうした活動の大きなカギとなっているのが「資金」。金融業界を中心にSDGsのための資金作りを支援する動きが加速している。

**滋賀銀行**は、3月からSDGsに貢献する事業を支援するため「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」の取り扱いを開始。日本の地銀でSDGsに関する融資の第1号案件として、水質浄化事業を手掛ける**ウィルステージ**(滋賀県草津市)に融資した。同資金は創業1年以上でSDGsの趣旨に賛同し、社会的課題解決につながる事業を行う企業や個人を対象としており、最大0.3%の金利優遇がある。

また、**日本証券業協会**は、SDGsの推進に向けた取り組みを記した「SDGs宣言」を3月にまとめた。働き方改革やワークライフバランスの推進、社会的な弱者への教育支援、SDGsの認知度向上の取り組みの他、証券市場が持つ資金調達や供給機能などを通じ、社会課題の解決を目指している。

一方、**パナソニック**は、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて活動するNPO/NGOが持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織基盤強化のための助成プログラム「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」を4月に創設した。助成総額は、2018年度新規募集分として、海外助成1000万円、国内助成1000万円。7月から募集を開始する。

SDGs達成に向けた資金不足の解決のために、民間企業や業界団体の力が期待されている。 k

(国内広報部主任研究員 吉満弘一郎)

## 『明治日本の産業革命遺産』



岡田 晃 著  
集英社  
2018年5月発行  
1900円(税別)

本誌で『明治150年』から学ぶ日本経済と企業経営』を連載中の岡田晃氏の近著。今年、明治改元から150年の節目の年である。明治維新により日本は近代化に成功し、世界有数の大国となった。西洋技術を積極的に導入し経済成長を遂げるとともに国の制度や仕組みを根本的に変える大改革を断行し、それが日本の今日の繁栄の基礎となっている。

日本の近代化を実現させた、そうした施設が2015年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄、鉄鋼、造船、石炭産業」として世界遺産に登録された。同遺産は、幕末から明治にかけての産業施設や史跡で、鹿児島、長崎など九州各地や山口、静岡、岩手の8県に及ぶ。

著者は、そうした現場を丹念に取材した。同書は「実は近代化のトップランナーだった佐賀県 『地方創生』の先駆け」「知られざる“近代化の父”・江川英龍 改革に命を捧げた伊豆の代官」「陰のプロデューサー、トーマス・グラバー “近代化特区”となった長崎」「反射炉から釜石、そして八幡へ産業革命の主役『鉄』」など8章から成る。

製鉄、造船、石炭産業の現場では、藩の垣根や政治の対立を超えて、若きサムライたちや無名の職人たちが協力し合った。彼らのひたむきなチャレンジ精神や熱い想いを感じることができるノンフィクションである。 k

(常務理事・国内広報部長 佐桑 徹)